

**2025 年度
一般入試（前期）
2025 年 1 月 29 日実施分**

問題と解答

国語

国語

I 次の文章を読んで、後の問い（問1～10）に答えなさい。

霊長類の多くは、社会集団を形成して生活している。しかもヒトの場合を除くと、順位ある群れ社会をつくっていることが多いので、必然的に他の個体とのコミュニケーションが不可欠となる。つまり、他の個体が発する情報を読みとり、それに対応しなければならぬ。^①種、性別、アイデンティティといった他の個体の属性を絶えず認識する必要が求められるのだ。その認識は主として視覚情報によってえられる。

野外で集団生活をするときに、まず求められるのは、種の識別——自種か他種か——である。研究の結果、種の識別に際しては、頭部（顔を含む）がもっとも重要な手がかりになっていることが明らかになった。

他個体の識別と同定に関しては、顔に含まれる情報をもとになされることがわかってきた。

チンパンジーは、顔写真による個体識別が可能だという。のみならず、ヒトという異種の個体認知もできることがわかった。このように、ヒト以外の霊長類も顔情報を手がかりに他個体の識別ができることが明らかになったが、もう一步踏みこんで、顔の倒立効果（顔を一八〇度回転させて示すと、認識が難しくなるといふ現象）と、識別する際の目の重要性について見ておこう。

かつての研究では、ヒトと同様の倒立効果をヒト以外の霊長類に認めることは難しいとされていたが、近年の比較認知研究では両者の間で同様の倒立効果がみられるといわれている。①倒立効果は顔認識に特有な現象（つまり、家などを見る場合には生じない）であることが、チンパンジーなどの研究で明らかになってきた。

それは、顔認識では顔全体の特性の知覚という全体的処理が^②ユウイに行われていることを意味するわけで、興味深いことだ。

また倒立効果はすべての顔刺激に対して見られるわけではなく、自種や研究者といった視覚経験のある他種、つまり親しいカテゴリーに属する顔刺激を認識する際にみられるものだという。

人間が他人の顔を識別する際には、目がとりわけ重要な役割を果たしている。近年の研究では、ヒト以外の霊長類でも顔認識における目の重要性が指摘されるようになった。

これは、目を合わせることが場合によっては威嚇を意味する、ということの裏付けにもなっている。つまり、顔認識における目の重要性は、。

さて、このような近年の比較認知研究のせいから、ヒト以外の霊長類の赤ちゃんを比べると、どのような知見が得られるのだろうか。

それを一言で表すなら、発達初期の霊長類は共通した顔認識メカニズムをもっている可能性が高い、ということになる。

具体的にいうと、ヒト以外の霊長類の乳児でも顔図形に対する好みが見られる。生後一カ月未満では、全体として顔のような配置の図形に偏好を示す。生後一カ月をすぎると、目・鼻・口といった各構成要素（部分的情報）とそれらの配置（全体的情報）の両方が顔に見えるような刺激に対して、偏好を示すようになる。【Ⅰ】

こうしたヒト以外の霊長類乳児が示す顔図形の偏好とその発達的变化は、人間の赤ちゃんの場合と非常に似ている。

また、人間の赤ちゃんが示す母親顔認識について、ヒト以外の霊長類乳児も同様な能力をもつことが明らかにされている。人間の赤ちゃんでは、生後わずか数日で母親の顔を喜んでいるといわれる。しかも、母親の顔を見る時間が合計して十一〜十二時間を超えると、お母さん顔を好むようになるのだという（以下は主として山口真美「顔と発達」による）。

山口真美は、人工哺育されたニホンザルを使って実験を行い、わずか三時間弱母親を見ただけでお母さん顔への好みが成立することを明らかにした。つまり、ニホンザルの方が人間の赤ちゃんより四倍ほど早くお母さん顔への偏好が生じるというのだ。

【Ⅱ】

ニホンサルは生まれてすぐ、ハイハイしたり座ったりすることができる。身体機能における発達が人間より早い。加えて新生児期における視覚部位の脳の発達速度も、サルは人間の四倍ほどといわれている。これらが、ニホンサルの方がヒトの赤ちゃんよりずっと早く、お母さん顔を偏好する理由だと思われる。【Ⅲ】

また^(注)パスカリスらは、生後六カ月の乳児と成人とにアカゲザルとヒトの顔を見せて、脳波のパターンを調べた。顔を見るときには特有の脳波パターンが生じるのだ。乳児の方は、アカゲザルの顔を見たときに、ヒトの顔の場合と同様の脳波パターンが生じた。一方、大人ではアカゲザルの顔を見ても、このような脳波パターンは生じなかった。

y。しかし、その後ヒトの顔の認識に専門化していくと、ヒト以外の顔は見分けにくくなる、というのだ。

ところで、一般的に人間の赤ちゃんは見なれているものを好まない、^(b)新奇なものを好む、といわれている。^(c)それなのに、顔やお母さん顔を偏好するのはなぜなのだろう。

^(ウ)タンじよう直後の赤ちゃんは、顔についての経験をもっていない。その場合、顔の最低条件ともいべき目・鼻・口らしきものが正しい位置にあることを、中心にせざるをえない。しかし、お母さんをはじめとする家族の顔を経験することによって、次第にお母さんに似た、中心顔^ウができてくる。

つまり、顔モデルの中心である中心顔は、赤ちゃんの生育と体験によって、目まぐるしく変化するのだ。だから山口は、「乳児が顔図形に注目することと、お母さん顔に注目することは、じつは中心顔を好むという同じしくみに基づいている。中心顔が変化しているだけなのだ」という「顔と発達」。

この「しくみ」は、ある意味で、成人における顔の識別のメカニズムと共通している。通常、どんな人でも一〇〇〇以上の顔を記憶し、識別できる。顔以外にそんなものは考えられない。このような⁽ⁱⁱ⁾は、「顔空間モデル」として理解することができる。それは、ある人がそれまでに見てきたさまざまな顔のデータに基づいて、見る頻度と顔の形状をたよりに、より効率的に

判断できるように並べられ、蓄積されたものだ。【IV】

そして、よく見る顔を中心にし、見る頻度の少ない顔を周辺に配置する。顔の見方モデル^①がつくられる。このモデルに基づいて、人は実に多くの顔を判断し、識別する。私たち日本人の場合、日本人の顔が中心にあり、白人や黒人は周辺に位置するモデルがつくられる。中心にある顔は、それらに対する経験を多くもっているので、ヨウイに識別できる。【V】

このようなモデルがつくられるのは、通常十歳頃だといわれている。このモデルと、既に見た赤ちゃんの中心顔偏好とは、共通するものとして理解することが可能であろう。また生後六カ月を過ぎた赤ちゃんが、ヒトの顔の認識に専門化すると、ヒト以外の顔の識別が困難になるという事実も、同様に理解が可能である。

しかし、赤ちゃん（^②霊長類全般を通じての）がなぜ顔を見るのを好むか、というもつとも重要な問いに対する正解は、未だ得られていないように思う。K・ローレンツ^③による「インプリンティング」（^④刷り込み）とか、生態学的な集団生活からくる必要性とか、さまざまな仮説が出されているが、決定的なものはない。さらに総合的な観点^⑤からついキュウされる必要があるだろう。

（大塚信一『顔を考える』より）

（注1）パスカリス……フランスの発達心理学者。

（注2）K・ローレンツ……オーストリアの動物行動学者。

（注3）インプリンティング……動物行動の一種で、最初に見た動くものを親だと思い込んでしまうといった現象。

問1 太線部ア～オのカタカナで表記された部分に使用する漢字を、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

エ

④

ヨ
ウ
い

54321

幼容要溶用

ア

①

ユ
ウ
い

54321

猶誘有優憂

オ

⑤

つ
い
キ
ユ
ウ

54321

救久究及求

イ

②

せ
い
カ

54321

果科加化課

ウ

③

タ
ン
じ
よ
う

54321

端誕探担短

問2 二重傍線部①・②はそれぞれ本文中でどのような意味で用いられているか。最も適当なものを、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

					① 威嚇					
					②					
5	4	3	2	1		5	4	3	2	1
驚き	とまどい	脅し	挑戦	自信		常識では説明できないもの	目新しく珍しいもの	変な形をしたもの	ありふれたもの	個性的なもの

問3 空欄①・②に入れるのに最も適当なものを、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

					① 空欄①					
					③					
5	4	3	2	1		5	4	3	2	1
もちろん	なぜなら	ただし	さらに	しかし		類似性	特殊性	普遍性	合理性	二面性

問4

波線部①「種、性別、アイデンティティといった他の個体の属性を絶えず認識する必要が求められるのだ」とあるが、ヒト以外の霊長類はどのようにして他の個体の属性を認識しているのか。その説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

⑩

- 1 ヒト以外の霊長類が他種を識別するときには頭部が手がかりとなっているのに対して、他の個体を識別するときには、頭部だけでなく体全体の情報が手がかりとなっている。
- 2 ヒト以外の霊長類が他種を識別するときには目、鼻、口など顔全体の情報を手がかりとしているのに対して、他の個体を識別するときには目だけを手がかりとしている。
- 3 ヒト以外の霊長類が他種を識別するときにはさまざまな顔の表情、そのなかでも特に目の動きが重要な役割を果たしている、そのことは他の個体を識別するときも同様である。
- 4 ヒト以外の霊長類が他種を識別するときには目、鼻、口のうちのいずれかの情報を手がかりとしているのに対して、他の個体を識別するときには目よりも重要な役割を果たしている。
- 5 ヒト以外の霊長類が他種を識別するときには顔を含む頭部よりも重要な手がかりとなっていて、他の個体を識別するときには、顔に含まれる情報、特に目が重要な役割を果たしている。

問5

空欄⑩に入れるのに最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

⑪

- 1 それがヒトとヒト以外の霊長類とを区別する要素だからでもあるのだ
- 2 それが感情に関わるシグナルの発信しか行っていないからでもあるのだ
- 3 それが他個体との唯一のコミュニケーション手段だからでもあるのだ
- 4 それが社会的場面でのシグナル機能を有しているからでもあるのだ
- 5 それが個体ごとにそれぞれ違ったシグナルを発信しているからでもあるのだ

問6

波線部⑧「ヒト以外の霊長類の赤ちゃんと人間の赤ちゃんを較べると、どのような知見が得られるのだろうか」とあるが、どのような知見が得られるのか。その説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

⑫

- 1 ヒト以外の霊長類の赤ちゃんと人間の赤ちゃんは、身体機能や脳の発達速度などがほぼ同じであるため、顔図形や母親顔への偏好やその変化の仕方が非常によく似ている。
- 2 ヒト以外の霊長類の赤ちゃんは、身体機能や脳の発達速度などが違っているにもかかわらず、顔図形や母親顔への偏好やその変化の仕方が、変化の速さなどはどれもほぼ同じである。
- 3 ヒト以外の霊長類の赤ちゃんは、顔図形や母親顔への偏好やその変化の仕方は非常によく似ているが、身体機能や脳の発達速度などの違いから、その変化の速さは同じではない。
- 4 ヒト以外の霊長類の赤ちゃんは、顔図形への偏好やその変化の仕方は非常によく似ているが、身体機能や脳の発達速度などが違っているため、母親顔への偏好やその変化の仕方は異なっている。
- 5 ヒト以外の霊長類の赤ちゃんは、顔図形への偏好やその変化の仕方は異なっているが、身体機能や脳の発達速度が違っているにもかかわらず、母親顔への偏好やその変化の仕方は非常によく似ている。

問7

空欄⑤に入れるのに最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

⑬

- 1 つまり生後六カ月頃までは、赤ちゃんはヒトの顔もサルの顔もほとんど区別することができない
- 2 つまり生後六カ月頃までは、赤ちゃんはヒトとサルの区別なく、同じように顔の区別ができる
- 3 つまり生後六カ月頃までは、赤ちゃんはヒトの顔は区別できるが、サルの顔は区別することができない
- 4 つまり生後六カ月頃になると、赤ちゃんはヒトとサルの区別なく、同じように顔の区別ができるようになる
- 5 つまり生後六カ月頃になると、赤ちゃんはヒトとサルを区別したうえで、それぞれの顔の区別もできるようになる

問8

波線部◎「それなのに、顔やお母さん顔を偏好するのはなぜなのだろう」とあるが、赤ちゃんが母親の顔を好んで見るのはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

⑭

- 1 人間の赤ちゃんはチンパンジーなどヒト以外の霊長類の赤ちゃんと同じように、生まれてから最初に見た顔を中心顔とする顔モデルを形成し、そうした中心顔を好んで見るという性質があるから。
- 2 さまざまな顔の経験をもっていて顔モデルが形成されている大人とは違って、顔についての経験をもっていない赤ちゃんは、母親や家族のように自分と似た顔を好んで見るという性質があるから。
- 3 チンパンジーやニホンザルのようなヒト以外の霊長類とは違って、生まれたときから顔モデルが形成されている人間の赤ちゃんは、自分が生きていくうえでもっとも大切な人物の顔を好んで見るという性質があるから。
- 4 生まれたばかりで顔についての経験をもたない赤ちゃんは、母親をはじめとする家族の顔を経験していくうちに母親の顔が中心顔となり、そうした中心顔を好んで見るという性質があるから。
- 5 赤ちゃんに顔モデルの中心となる中心顔が形成されるのはふつう生後六カ月を過ぎてからであって、それまでの間は自分のもっとも近くにいる人物の顔を好んで見るという性質があるから。

問 9

本文には次の一文が抜けている。その入る位置として最も適当なものを、後の 1 ～ 5 のうちから一つ選びなさい。

⑮

しかし周辺にいくほど、それらの顔についての経験が乏しくなるので、区別が難しくなる。

5	4	3	2	1
〔	〔	〔	〔	〔
V	IV	III	II	I
〕	〕	〕	〕	〕

本文の内容に最もよく合致するものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

16

- 1 赤ちゃんの頃の人間は他の霊長類と同じ方法で顔を認識しているため母親や家族など限られた顔しか識別することができるが、十歳頃になると、よく見る顔だけを記憶する「顔の見方モデル」がつくられ、他の一般的な記憶とは違って一〇〇〇以上の顔を記憶し、短い時間で効率的に識別することができるようになる。
- 2 人間は赤ちゃんの頃から他種や他個体の識別をすることができるが、そうしたことができるのは、人間がサルやチンパンジーなど他の霊長類とは異なる顔認識メカニズムをもっていて、生まれたときから見てきたさまざまな顔を他の記憶と同じように一つのデータとして記憶し、判断の基準として利用しているためである。
- 3 パスカリスらによる脳波パターンの実験からもわかるように、赤ちゃんの頃の人間は顔に関する経験がほとんどないため、人間と他の霊長類の顔を区別することができないが、十歳頃になって「顔の見方モデル」がつくられると、それまでとは違って人間と他種の区別なく、同じように顔の識別ができるようになる。
- 4 生まれたばかりの赤ちゃんのように顔についての経験がほとんどない頃の人間は、誰もが同じ方法で他種や他個体を識別しているが、日常生活を送るなかでさまざまな顔を経験し、顔についての知識が蓄積されていくと、一人一人がそれぞれの経験に基づいて異なる方法で種や個体を識別するようになっていく。
- 5 人間は一般的に一〇〇〇以上の顔を記憶し識別することができるが、そうしたことができるのは、人間はそれまでに見てきたさまざまな顔についてよく見る顔を中心にし、見る頻度の少ない顔を周辺に配置する「顔の見方モデル」をつくっているためであって、赤ちゃんの中心顔の偏好も共通のメカニズムだと考えられる。

Ⅱ 次の文章を読んで、後の問い（問1～10）に答えなさい。

「部屋の掃除をつい先延ばしにしてしまう」「毎日、コツコツと試験勉強ができない」「ダイエットへの挑戦が三日坊主で続かない」などなど、^(A)「やる気」は悩ましい問題である。このように「やらなきゃ」と思ってもやる気が出ずに、結局やれなかったという苦い経験は、誰にでもあるのではなからうか。

やる気が出ないのは自分だけではない。他者のやる気も気がかりだろう。子どもがなかなか机に向かって勉強しないので、親はイライラして、わが子のやる気に問題があると考える。暇さえあればサボったり、努力せずに手を抜いたりしがちな部下の仕事ぶりに手^(a)を焼いている上司は、彼らのやる気を何とかして高めたいとあれこれと策を⁽⁷⁾コウじるだろう。

どうやら、やる気をめぐるわれわれの悩みは、「どうしたら自分がやる気になるか」と「どうしたら他者をやる気にさせられるか」という2つの問いに集約されるようだ。

しかも、やる気には対象による違いもある。

⁽¹⁾、仕事へのやる気、家事に対するやる気、勉学へのやる気というように、

課題の種類や分野によってやる気は異なる。仕事へのやる気はまあまあだが、家事に対してはまったくやる気が出ないという人がある。また、同じ家事でも、料理には^(お)自ずとやる気が生じるのに対して、洗濯と掃除にはなぜかやる気が出ないという人もいる。^(x)、生まれてこの方、何事に対してもやる気がある（あるいは、まったくない）という人はご

く稀^{まれ}だろう。【Ⅰ】

一般に、やる気は、特定の行動を引き起こす^(b)原動力として理解されている。とりわけ、「やる気があれば頑張れる」というように、われわれはやる気を努力と結びつけて理解している。やる気は努力を促して行動を引き起こすと考えているわけだ。

ちなみに、自分の経験をもとに信じているこのような理解の仕方を、心理学では素朴理論と呼ぶ。われわれは、この「やる気

＝原動力」という素朴理論に基づいて自分や他者の行為を解釈しているのである。【Ⅱ】

何よりもわれわれの体験が、この素朴理論を裏づけている。やる気や努力は実感しやすい。心身にエネルギーが満ちあふれ、目の前の課題に意識を集中するといった心理状態は誰しも体験したことがあるだろう。逆に、しなければならぬ課題に集中しようとしても気が散ってしまったり、先延ばししてしまったり、あれこれと自分に言い訳をして、もっと楽しい別の活動にトウひ^①してしまったりといった体験もある。このように、やる気の有無は「やる気体験」、さらには「努力体験」としてイメージしやすいため、それが「やる気＝原動力」と信じる根拠となっているわけだ。【Ⅲ】

素朴理論はこのように体験的な裏づけがあるために強固なのだが、素朴すぎるという欠点がある。たとえば、やる気がありさえすれば常に行為が生じるだろうか。よく耳にする「やる気はあるんだけど、なかなかできない」というセリフが示す通り、やる気が必ず行動に結びつくとは限らない。

また、やる気という言葉に「気」という漢字が含まれているという点も興味深い。そもそも「気」とは、空気や大気のような「変化、流動する自然現象」を指し、そこから転じて「生命、精神、心の動き」「心のはたらき、意識」をも意味するという。「気が変わる」、「移り気」といった言葉からわかるように、そこには一時的で不安定というニュアンスがある。【Ⅳ】

やる気に似た言葉として「意欲」がある。やる気と同様、自分の心理状態（今日は意欲的だった）や他者の様子（あいつにはまったく意欲が感じられない）に対して用いられる日常語である。

意欲という言葉はそもそも「意志」の意と「欲求」の欲の複合語だという。意志とは最後までやり遂げようとする心理を指し、欲求とは「○○したい」という個人の内部から湧き出る願望を意味することから、意欲とは「やりたい」という強い願望を原動力として、最後までやり抜こうとする心理現象を意味する。【Ⅴ】

ポイントは「意」と「欲」のいずれかが欠けると意欲とは呼べないという点だろう。「○○したい」と思っているだけで意志が弱かったり、「成し遂げよう」という意志はあっても「やりたい」という強い気持ちがいなければ、意欲的とはいえないのである。

たとえば、食通と呼ばれる人たちは、食^くべ^るこ^とに^対し^て意^欲的^に違^いな^い（「食^くべ^るこ^とに^対し^てやる^気が^ある[」]とはいわ^ないはずだ）。「おいしいものを食^くべ^たい[」]という欲求は誰にでもある。しかし、それを成し遂げようとする意志はあるだろうか。空腹時に「^㉔ラーメンが食^くべ^たい[」]と思^って^も、近場にラーメン屋があれば、「バスタでもいいか」というように、他のメニューで妥協する人は多いに違^いない。ラーメンを食^くべ^{よう}と^する「やる^気」が^すぐ^に失^せて^しま^うわ^けだ。

それに対して、食に意欲的な人は、^㉕あくまでもラーメンに固執し、遠くに移動してまでもラーメンを食^くべ^るこ^とに^こだ^わり^つづけるだろう。さらには同じラーメンであ^つて^も、より、おいしいものを追^い求^め、たとえば、^㉖きんりんにある複数のラーメン屋の評判を調べ上げて比較^㉗ケン^とう^するに違^いない。その結果、彼ら自身が食^くべ^るに値^すると考^えるラーメンに確^実にたどり着^く。

㉘。

しかも、彼らの意欲はその場限りではなく、いつでもどこでも発揮される。一日三度の^㉙な食事場面のみならず、しゅつ^ちョウや旅行の出先でも、彼らの食に対する意欲的な姿を観察できるはずだ。

以上のように考えると、やる気と意欲の微妙な違いがわかってくる。やる気が短期的で不安定な状態を指すのに対し、意欲には意志のはたらきが加わるため、「粘^り強^い」（持続性）、「確^実に行^う為^が起^こる」（確^実性）、「いつでも発揮される」（安^定性）といった意味が含まれるのである。

（鹿毛雅治『モチベーションの心理学』より）

問1 太線部ア～オのカタカナで表記された部分に使用する漢字を、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

㊦

ケンとう

20

5 4 3 2 1

剣 陰 研 健 検

ア

コウじる

17

5 4 3 2 1

抗 講 効 溝 高

オ

しゅっ
チヨウ

21

5 4 3 2 1

頂 張 庁 長 調

イ

トウひ

18

5 4 3 2 1

盗 投 統 逃 到

ウ

きん
リン

19

5 4 3 2 1

隣 輪 臨 林 倫

問2 二重傍線部①・②はそれぞれ本文中でどのような意味で用いられているか。最も適当なものを、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

- | | |
|---|---|
| <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">22</div> | ① 手を焼いている |
| 5 4 3 2 1 | 怒っている
困っている
あきれている
驚いている
イライラしている |
-
- | | |
|---|---|
| <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">23</div> | ② あくまでも |
| 5 4 3 2 1 | いつでも
しばしば
徹底的に
当然のことながら
不思議なことに |

問3 空欄①・②に入れるのに最も適当なものを、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

- | | |
|---|-----------------------------------|
| <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">24</div> | 空欄① |
| 5 4 3 2 1 | さらに
ただし
たとえば
しかし
あるいは |
-
- | | |
|---|---------------------------------|
| <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">25</div> | 空欄② |
| 5 4 3 2 1 | 主體的
社会的
義務的
必然的
日常的 |

問4

波線部①『やる気』は悩ましい問題である」とあるが、人を悩ませる「やる気」についての説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

26

- 1 日常生活の中にはすぐにやる気が出ることもなかなか出ないことがあるが、やる気が出ないことは、部屋の掃除や試験勉強、ダイエットなどのように、ある特定の人だけでなく多くの人々で共通している。
- 2 日常生活の中でやる気が出たり出なかったりするのはよくあることであるが、どのようなことに対してやる気が出て、どのようなことにやる気が出ないのかといったことは人によってさまざまである。
- 3 人には普通やる気の出るものと出ないものがあり、その対象は人によってそれぞれ違っているが、どのようなことに対してやる気が出たり出なかったりするのは生まれながらに決まっていて、それが変わることはほとんどない。
- 4 やらなければならぬことがわかっているにもかかわらずやる気が出ないといったことは誰にでもよくあることであるが、たいていの場合、始めはやる気が出なくても時間が経つとやる気が出てくることが多い。
- 5 世の中には何事に対してもやる気がある人と何事に対してもやる気がない人が存在するが、ほとんどの人は後者のように「やらなきゃ」と思ってもやる気が出ない人であって、前者のような人はごく稀である。

問5

空欄⑩に入れるのに最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

②7

- 1 このように同一人物であっても、やる気のある分野とない分野があるのが普通で
- 2 このように家事という同じ分野であっても、人によってやる気に差があるのが普通で
- 3 このように日常生活の中であっても、心身の状態によってやる気が変わるのが普通で
- 4 このようにいくつものことをやっているとき、次第にやる気が失われてしまうのが普通で
- 5 このように同じようなことであっても、やる気が出るときと出ないときがあるのが普通で

問6

波線部B『やる気があれば頑張れる』というように、われわれはやる気を努力と結びつけて理解している」とあるが、人がやる気を努力と結びつけて理解するのはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

28

- 1 やる気が出て成功したり、やる気が出なくて失敗してしまったりするなどといったような、やる気と努力の結びつきを実感する体験は特別なことではなく、日常生活の中で誰もがしばしば体験していることだから。
- 2 やる気が出て努力することができたり、やる気が出なくて努力することができなかったりするなどといったように、世の中にはやる気の有無と努力の結びつきを感じる体験をしたことがある人が多いから。
- 3 やる気を出して成功したりやる気が出なくて失敗したりすることは誰もが一度は体験しているが、そうしたことはめったに起こらないために印象が強く、人々の記憶にはつきりと残っているから。
- 4 やる気を出して特定の行動を引き起こすのはそれほど難しいことではないため、それまでやる気を出したことがなかったとしても、やる気を出せば誰でもすぐにその結びつきを確かめることができるから。
- 5 やる気が出れば努力することができ、やる気が出なければ努力することができないといったように、やる気と努力の関係は単純なため、実際にそうした体験をしたことがない人でも、その結びつきを簡単にイメージすることができるから。

問7

波線部◎「『ラーメンが食べたい』とあるが、このときの「ラーメンが食べたい」という欲求についての説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

29

- 1 「ラーメンが食べたい」は食べることに意欲的な人たちが持つ欲求であって、食べることに意欲的ではない人たちがこうした欲求を持つことはほとんどない。
- 2 「ラーメンが食べたい」は日常生活の中で生じる欲求の一つであるが、多くの人たちにとってこの欲求は絶対に成し遂げなければならないほど強いものではない。
- 3 「ラーメンが食べたい」は「やる気」や「意欲」ではなく、空腹を満たしたいという一時的な欲求でしかないため、ラーメンではなく他のメニューで妥協してしまう人が多い。
- 4 「ラーメンが食べたい」は「○○したい」という個人の願望であって、一時的には他のメニューで妥協できても、それが実現するまで繰り返し湧き出てくるものである。
- 5 「ラーメンが食べたい」は「おいしいものを食べたい」という欲求の一つであるが、他のメニューとは違って、よりおいしいラーメンを食べることにこだわる人が非常に多い。

問8 空欄⑤に入れるのに最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

30

- 1 彼らはラーメンという食べ物を高く評価するだけではなく、一つのものを食べ、つづけるという行為にも高い価値を見いだしている人たちなのである
- 2 彼らはラーメンを食べることにこだわっているのではなく、食べ、を、と、おいて生きがいを見つけようとしている人たちなのである
- 3 彼らは意志が強いのではなく、いったん食べると決めたものは必ず食べ、な、ければ、な、という義務感にさいな苛まれた生真面目な人たちなのである
- 4 彼らはラーメンだけではなく、世の中のあらゆるおいしいものを食べ、尽、くすことに執念を燃やしている行動力のある人たちなのである
- 5 彼らは単に「おいしいものを食べたい」という欲求が強いだけではなく、おいしいものを食べ、遂げ、という意志が強い人たちなのである

問 9

本文には次の一文が抜けている。その入る位置として最も適当なものを、後の 1 ～ 5 のうちから一つ選びなさい。

㊦

「俄然、やる気が出てきた」「一気にやる気が失せた」といった表現からもわかるように、やる気には波のような一時的で不安定な性質があるのだ。

5	4	3	2	1
〔	〔	〔	〔	〔
V	IV	III	II	I
〕	〕	〕	〕	〕

本文の内容に最もよく合致するものを、次の1～5のうちから一つ選びなさい。

32

1 世の中では一般的に「やる気＝原動力」などと言われているが、やる気が行動に結びつくことはほとんどなく、『やらなきゃ』と思ってもやる気が出ずに、結局やれなかった』などといったように、やる気を出そうとすればするほどかえって物事を成し遂げられなくなってしまうことも少なくない。

2 われわれは「やる気＝原動力」という素朴理論に基づいて自分や他者の行為を解釈しているが、やる気というのは意欲とは違って特定の行動を引き起こす原動力にはならないため、何らかの物事を成し遂げようとするときにはやる気ではなく意欲を持たなければならない。

3 やる気は特定の行動を引き起こす原動力であると「素朴」に信じている人が多いが、やる気とよく似た言葉で、持続性や確実性、安定性が高い「意欲」とは違って、やる気は一時的で不安定な傾向があるため、それが必ず行動に結びつくとは限らない。

4 世の中の多くの人たちはやる気と意欲を同一のものとして認識しているが、これらは特定の行動を引き起こす原動力となる点では共通しているが、持続性や確実性、安定性の面では大きな違いがあるため、日常生活の中ではそれぞれの性質を踏まえて、やる気や意欲をうまく使い分けていくことが必要である。

5 やる気や意欲というものは特定の行動を引き起こす原動力だと考えられているが、そうしたものがあつたとしてもそれが必ず行動に結びつき、物事を成し遂げることにつながるわけではなく、どのような結果になるかは人によって異なるため、やる気や意欲の有無を気にするのは意味のないことである。

〔問題終了〕

2025国語 718一般試験 解答と配点

前期 2

大問	マーク番号	解答	配点	合計
Ⅰ	1	2	2	50
	2	5	2	
	3	4	2	
	4	4	2	
	5	3	2	
	6	3	2	
	7	4	2	
	8	2	2	
	9	4	2	
	10	5	5	
	11	4	3	
	12	3	5	
	13	2	3	
	14	4	5	
	15	5	5	
	16	5	6	

50

大問	マーク番号	解答	配点	合計
Ⅱ	17	4	2	50
	18	2	2	
	19	5	2	
	20	1	2	
	21	4	2	
	22	2	2	
	23	3	2	
	24	3	2	
	25	5	2	
	26	2	5	
	27	1	3	
	28	2	5	
	29	2	5	
	30	5	3	
	31	4	5	
	32	3	6	

50